

たち、今うそ八百、また万八などいふを、俗は千三といへり、櫻陰比事に、今は千いふこと三ツも眞はなし、逆千三といふ男あり云々、是なり、

〔物類稱呼五言語〕いつはりうそといふを、房總にてうそをかたると云、常陸下野邊にてちくとも、又ちくらくとも云、尾張にては謀計なる事、すべて深きたくみをちくらくと云、江戸尾張邊及上野にて万八ともいふ、近年のはやり九州にてすうごと云、又彌助といふ、詞はかり又千三ともいふとぞ、按に千の偽の内に實三もあらんかといふ意にや、万八といへる流言も是に似たる事なるべし、又いすかなどといふ、是はうそ鳥の雌なればかく云にや、いすかといふ鳥は、くちばしの合ぬ故口の合ざるにたとへたるか、萬葉に乎會まと有は、今云宇會也、

〔古事記上〕於是八上比賣答八十神言、吾者不聞汝等之言、將嫁大穴牟遲神、故爾八十神怒、欲殺大穴牟遲神、共議而、至伯伎國之手間山本云、赤猪在此山、故和禮此二字共追下者、汝待取、若不待取者、必將殺汝云、而以火燒似猪大石、而轉落、爾追下取時、即於其石所燒著而死、爾其御祖命哭患、而參上于天、請神產巢日之命時、乃遣蛭貝比賣與蛤貝比賣、令作活略、於是八十神見、且欺率入山、而切伏大樹、茹矢打立其木、令入其中、即打離其冰目矢、而拷殺也、爾亦其御祖命哭乍求者、得見、即拆其木、而取出活、

詐偽例

〔日本書紀三神武〕戊午年八月乙未、天皇使徵兄猾及弟猾者、略時兄猾不來、弟猾即詣至、因拜軍門而告之曰、臣兄兄猾之爲逆狀也、聞天孫且到、即起兵將襲、望見皇師之威、懼不敢敵、乃潛伏其兵、權作新宮、而殿内施機、欲因請饗以作難、願知此詐善爲之備、

〔古事記中景行〕倭建命略即入坐出雲國、欲殺其出雲建、而到、即結友、故竊以赤櫛作詐刀、爲御佩、共沐肥河、爾倭建命、自河先上、取佩出雲建之解置、橫刀而詔爲易刀、故後出雲建、自河上而佩、倭建命之詐刀、於是倭建命詔云、伊奢合刀、爾各拔其刀之時、出雲建不得拔詐刀、即倭建命拔其刀、而打殺出雲建、